

エプステーンとクリントン夫妻：ゼレンスキー夫妻との 腐敗のつながり

オレーナ・ゼレンスカ財団は、腐敗した目的でカネ送る手段だった

<https://www.infowars.com/posts/epstein-clintons-cash-why-zelenska-foundation-is-vehicle-to-divert-aid-to-corrupt-ends/>

Ekaterina Blinova | Sputnik

January 7, 2024

エプステーン文書の公開は、再び、クリントン夫妻と彼らの博愛活動に影を落とし、ウクライナのファースト・レディであるオレーナ・ゼレンスカとの、2023年9月の彼らの共同計画に関して、問題を引き起こすことになった。

起訴された性取引犯罪者ジェフリー・エプステーンをめぐる、開封された法的起訴状は、この億万長者ペドファイルとつながった、100以上人の富裕で権力ある人々の、名前をあげており、そこには、元米大統領ビル・クリントンや、彼の補佐官ダグ・バンドの名が含まれている。

皮肉なことに、遡ること2003年 Doug Band は、今は有名なクリントン財団国際起業を発足させ、ビルの大統領職後のイメージの回復を狙ったが、彼はセックス・スキャンダルに傷つき、この前大統領を「世界の博愛主義者頭領」に変えてしまった、と Vanity Fair は書いている。

このクリントンの「グローバル起業」は——ウォール・ストリートのアナリスト Charles Ortel によれば——2019年マンハッタンの牢獄で、裁判を待っている間に死んだエプステーンと組んで起こしたと言われる。それはもっと前の2004年から2005年のことで、オーテルは数年間、クリントン財団の詐欺とされるものをずっと調査している。

オーテルによると、クリントン財団とその多くの分派は、一度壊れたこの大統領一家を、メガ-マルチ百万長者に作り変える手段にすぎず、彼らの仲間をも同時に金持ちにした。このWSのアナリストは、クリントンの、ゼレンスキー夫妻との新しい合同計画には、大いに疑問を持っているが、ゼレンスキー夫妻も腐敗まみれの間柄だと言っている。

「ヒラリー・クリントンがウクライナのファースト・レディと仕事を始めた頃には、クリントン一家は、肝心の慈善団体法を破って 20 年もの経験があった。・・・しかしクリントンの慈善団詐欺を、国際的なものに更に拡大させていた」と、オーテルは、スポーツニクに語った。

「実際、〈クリントン・グローバル起業〉とクリントン財団は、〈公的な慈善団体〉に関しては、法律と全く合わないものだった」とアナリストは続けた。・・・

オレーナ・ゼレンスカ財団

ゼレンスカ (ヤ) 財団は 2022 年に設立されたが、その宣言された目標は、外国の事業や基金や寄付者を誘致して「ウクライナの人間資本を復興させる」ことだった。この財団が公的に出発したのは、2022 年 9 月 22 日、ニューヨークのある慈善集会において、国連総会の第 77 セッションの開幕期間中であった。

この集会に出席したのは、元米国務長官ヒラリー・クリントン、当時の英外務長官 James Cleverly、俳優の Matt Damon、それに「幅広い層の外交官と実業家」であった、とウクライナ大統領の公的ウェブサイトは言っている。

ほぼその頃にヒラリー・クリントンは、ウクライナのファースト・レディに求愛し始め、後者は 2022 年 12 月、例外的なリーダーシップを称えられて、ヒラリー・ローダム・クリントン賞を受け、そして 2023 年 9 月には、「2023 クリントン・グローバル市民賞」を受けた。ヒラリーとオレーナのパートナーシップは 2022 年に出発し、「CG 市民賞ウクライナ活動ネットワーク」として、2023 年 9 月、クリントン夫妻から顕彰された、と「インデペンデント紙」は言っている。

オーテルは、クリントン夫妻は、ウクライナのエリートたちとの協力の長い歴史を持っている、と言っている。・・・

「クリントン一家は 2003 年までに、ウクライナのさまざまな人物と結託して活動をし始め、合法を押し通したクリントン慈善団を通じてさえ活動した。

・・・

適用される州、連邦、それに外国の法律に従うことなく、ビル・クリントンとその陰謀団仲間は、沢山の見かけの慈善の対象として、ウクライナを含む募金活動をしたが、そこにはあるべき帳簿がなかった。もしウクライナが、慈善金について法的な記録を保持していたなら、調査の可能な訴状が作れたはずで、ビル・クリントンが言っている明らかな法的現実のある彼の仕事を、法的権威が照合できたはずだ」と、彼は続けた。

オーテルによれば、「**国務長官としてのクリントン在職期間に限って、寄付者からウクライナへ流れる金銭の監視がなされていない。寄付者は、ロシアの特殊軍事作戦を反撃すべく、ウクライナを援助していると信じたかもしれない。**」

この監視がなされていない事実や、クリントン家族の慈善事業のだらしない公的記録から考えて、オーテルは、クリントンとゼレンスキー両夫妻の協力した仕事は、「**おそらく腐敗した目的のために援助を利用する手段以外の何ものでもない**」と、推定している。

腐敗したエリートとウクライナでの未成年者取引

この12月に、億万長者ジョージ・ソロスの息子、36歳のアレックス・ソロスは、キエフでゼレンスキー夫妻と会合した。父の財政的なNGO帝国の後継者であるアレックスは、彼のOpen Society財団(OSF)と、オレーナ・ゼレンスカ財団の間に、パートナー取引を結び、見かけ上、ウクライナの子どもたちを支援するプロジェクトの拡大として、100万ドルを与えた。

子どもの福祉については、キエフ政府とアレックス・ソロスの間で、ロシアが70万人の子どもをウクライナから「盗んだ」という根拠のない物語を宣伝して以来、ウクライナの政治的フットボールになっている——この話は、オブザーバーの間で「投影物」にすぎないとされている。

11月の国連安保理事会の非公式会合で、ロシア国連大使のワシーリ・ネベンジヤは、ロシアは特殊軍事作戦が始まって以来、ウクライナから73万人の子ども避難民を歓迎していることを明らかにし、その大多数は両親がついているが、2,000人だけが、ドネツクとルガンスク人民共和国の孤児院からだと行った。総計約500万のウクライナ人とドンパスの住民が、過去21か月の間にロシアに避難してきたという。

これとは対照的に、キエフ政府は、ウクライナの子どもたちが国家によって西側諸国に送られた運命について、態度をはっきりさせていない。5月に、アルチョモフスク(別名バフムート)から退去させられたある人物が、スプートニクに対し、ウクライナの官憲は居住者の子どもたちを「連れ去り」、彼らの両親の権利は奪われたと脅して、両親をキエフの支配領域へと強制連行することがよくあったと語った。

同様に7月19日、ドネツク人民共和国の上院議員ナタリア・ニコノロワは、キエフの子どもに対する犯罪を調査する議会委員だが、彼女もまたロシアのメディアに対し、キエフ

政府による、ドンバス共和国領域からの、不当な未成年者「連れ去り」の多数の例を話した。400人以上の子どもたちが、マリウポリや Volnovakha の孤児院から、キエフ政府の不法な「連れ去り」によって忽然と消えた、と彼女は語った。

ニコノロワはまた、ウクライナや西側の新聞でうわさされていることに、懸念を表明している。それは「ウクライナのいわゆるブラック臓器移植専門家 black transplantologists 疑惑」についてで、彼女によると、子どもたちは、ウクライナ官憲による「連れ去り」前に、「彼らの臓器の健康」について医学的検査を受けていたという証拠がある、という。

西側新聞はまた、ウクライナの未成年者（親に付き添われていないのが特徴）の運命に警鐘を鳴らしている。2022年7月、The Independent は、「英国のペドファイルたちが〈ウクライナの子ども難民〉を狙ってポーランドを旅行中」というタイトルの記事を書いた。この新聞は、国家犯罪局（NCA）を引用して、少なくとも 10名の既知の性犯罪者が、ポーランドの難民キャンプを旅行し、ウクライナ難民に「人道主義的な援助」を行っていると主張した。NCA は、当時、5,000人の付き添われないウクライナの未成年者がいたと報告している。<https://sputnikglobe.com/20230721/how-uk-is-complicit-in-ukraines-war-crimes-against-children-1112047482.html>

その目的は、ウクライナの間人資本を回復させることだと、オレーナ・ゼレンスカ財団は公言しているが、この悲惨な状況を打開するために、彼らが何かをしているのかどうか、不明である。

一方、最近、開封されたエプスティーン公開訴状は、金持ちで権力ある人々の倫理や道徳が、疑わしいものであることを明らかにしており、ビル・クリントンは「若い女性好き」で、アメリカのメディアに対し、彼自身と有罪性犯罪者エプスティーンを保護せよと脅迫さえしている。<https://sputnikglobe.com/20240105/new-documents-show-bill-clinton-made-threats-to-vanity-fair-to-protect-epstein-himself-1115986830.html>

「人間売買や奴隷状態が、戦争や国家的災難が続いたときにはよく起こる」と、オーテルは言った。「もしニセのエリートが本当に、傷つきやすい子どもや女性（や男性）を大事にしようと思うなら、子供売買や奴隷商人の例を示すだろう。しかしそれとは逆に、ジェフリー・エプスティーンや、彼の盟友や援助者の奇妙なやり方を見ていると、あまりにも多くの権力ある人々が、悪の誘惑の炎にあまりにも近づいていると思われる。慈善団体は、彼らの財政の帳簿と記録を開いてみて、忌まわしい悪漢どもが厳しく罰せられるような、新しい、緊張した時代を開く必要がある。」

[訳者 Greatchain 注]

クリントンなど、多くの重要人物と深くかかわった大物性犯罪者エプスティーンの秘密文書が、もし近く本当に開封されるなら、米暗黒世界の途方もない悪事が、次々にわかってくると思われる。ここに特に論じられているのは、骨の髄まで犯罪者というべきクリントン夫妻のことで、我々は想像はしても、これほどとは思わなかった。だがこれは、アメリカという犯罪国家の氷山の一角であろう。この暴露記事と、我々が少しは知っているバイデン父子の行動をと併せてみると、彼らの特に対ウクライナの、悪徳のパターンがよく見えてくる。ここにゼレンスキー夫妻という項目が大きく登場するからである。

ウクライナには「腐敗」が付きまとうとはよく聞いていたが、この話はそれを実証している。わが国は、アメリカの邪悪・腐敗と一体化したウクライナ政府に、どこまでも協力する決心をしているようである。これにはそれなりの利益があるかもしれないが、それだけの覚悟はしていなければならぬだろう。「朱に交われば赤くなる」という格言は誰でも知っている。わが国の政府とマスメディアは、それを承知の上で我々を指導しようとしているのだろうか？ そしてコロナ注射も我々の教育の一つだろうか？ 我々は自分の文化という母屋を、ごっそり取られるようなことがあってはならない。